

平成19年度
公立学校早期適応プログラム（プレスクール）
実施報告書

平成20年3月
愛知県国際課多文化共生推進室

1. 知立市実施分

(1) 実施期間

平成19年12月1日～平成20年3月24日

(2) 実施場所(拠点)

知立市立知立東小学校

(3) 適応指導員

今井さや香

2. 小牧市実施分

(1) 実施期間

平成19年12月1日～平成20年3月24日

(2) 実施場所(拠点)

小牧市立大城小学校

(3) 適応指導員

加藤紘子

3. 参考資料

(1) 平成19年度公立学校早期適応プログラム(プレスクール)

事業実施要綱

(2) 平成19年度公立学校早期適応指導員設置要領

1. 知立市实施分

公立学校早期適応指導員事業報告

知立市担当 今井さや香

1. 講座実施期間

2007年12月1日～2008年3月24日(4ヶ月間)

2. 活動拠点

知立市(知立市立知立東小学校)

3. 概要

(1) 外国人児童の状況

知立市の外国籍住民の割合は約6%であるが、活動拠点となった知立東小学校については全校生徒の約40%以上が外国籍児童である。これは、知立市におけるニューカマーの出稼ぎ労働者のほとんどが知立団地に集住していることが要因だといえる。2008年度知立市入学予定児童数は全55名中25名が外国籍児童である。(2008年3月時点外国籍児童のほとんどがブラジル国籍であるが、ボ

リア、アルゼンチン、ペルー、フィリピン国籍の児童もいる。児童の約75%が認可された日本の保育園に通っているため、日本語で簡単な会話ができる児童が多い。が、ほとんどの児童が家庭で両親の母国語を使って生活しているため、日本の家庭で育った子どもとは語彙数が異なり、日本語でよく会話ができる児童でも保育園で使わない語彙は知らないケースが多い。

(2) プレスクール実施による効果

日本語の語彙が増え、理解できる日本語の幅が広がった。

外国籍の児童のほとんどが保育園で日本語を覚えているため、保育園で使わない語彙(ふでばこ・ランドセル・長い・高い・およぐ...など)を知らない。語彙が増えることで理解できる日本語の幅が広がる。小学校での担任の指示「ふでばこをかたづけましょう。」や算数での「どっちが長いですか。」など理解できる幅が広がることは、児童の自信につながることはもちろんのこと、学校側の負担も軽減する。

ひらがなが読めるようになった。

プレスクールの少人数クラスで学習した児童の約7割がひらがながまったく読めなかった。個々の能力により、到達点は異なるが、ひらがなの音と形が一致し始め、ほとんどの児童が五十音表を読むことができるようになった。それが児童の自信へとつながっている。意味はとれなくても、教科書が読めるか読めないかでは大きく異なる。

運筆がしっかりしてきた。

鉛筆が正しく持てず、安定した線が引けなかった児童もいたが、姿勢・鉛筆の持ち方を指導し、運筆練習を十分にしてから、ひらがなを書く練習に移っていったことで、安定した字が書けるようになった。

学習態度が落ち着いてきた。

最初は座ってられる時間・集中できる時間が少なかった。(10分以下)自分の思い通りにならないと投げ出す児童、授業中叫んだり、立ち歩きが目立った児童も、プレスクールを続けるにつれ、指導員の指示に従って、落ち着いて学習できるようになってきた。イスに座ってられる時間も徐々に長くなり、3月プレスクール修了時点ではほとんどの児童が45分座って学習できるようになった。

(保護者の声)

- ・自分の子どもがプレスクールに参加できて本当によかった。感謝している。
- ・家庭で親子一緒にプレスクールの勉強をしている。親子で日本語が勉強でき有難い。
- ・日に日に子どもが成長していくのが分かる。ゲームやカードなどを取り入れた学習を子どもも楽しんでる。
- ・子どもがプレスクールを大変喜んで、楽しみにしている。
- ・文字に興味をもつようになり、ひらがなの読み方を家でもよく聞いてくるようになった。
- ・日本の小学校に適應するために、親としても家庭でできることがあれば教えてほしい。

(保育園の声)

- ・日本語での受け答えがしっかりしてきた。
- ・児童が落ち着いてきた。
- ・子どもの語彙の幅が広がっている。(特に形容詞)保育園ではそこまで教えることができないので感謝している。
- ・保護者がプレスクールをととても喜んでる。プレスクールがあることで保護者が安心できる。
- ・子どもたちからも、「プレスクールに参加してよかった。プレスクールがなかったら学校で困ったと思う。来年の年長さんにもやってあげてほしい。」という声があった。
- ・児童、保育園、学校にとってとてもいいプログラムである。ぜひ来年も続けてほしい。

(学校の声)

- ・入学前に児童が小学校について理解できていることは大きい。
- ・児童の様子がわかり、クラス編成も大いに助かっている。
- ・事前に入学してくる児童の様子がわかるので有難い。入学前の児童の様子を把握している人がいると助かる。
- ・昨年度入学した児童(1年生)は大変落ち着いており、プレスクールの効果を実感している。今年度も期待している。

(3) プレスクール実施にあたり気をつけた点

- ・最初から椅子に座らせて学習することを強要せず、アクティビティを取り入れ楽しみながら語彙を学習し、まず日本語の学習が好きになるように努めた。徐々に椅子に座って学習する時間を増やしていくことで無理なく学習態度が身につくようにした。
- ・児童によって性格・日本語のレベル等異なるため、臨機応変に対応し、個々にあった指導内容・指導方を考えた。

4. 活動内容

(1) 活動場所について

- ・拠点を知立東小学校とし、下の表のとおり活動した。

| | 月 | 火 | 木 | 金 |
|-------------|-------------------------------------|---|---|-------------------|
| 午前 | 知立東小学校 (未就園児プレスクール・日本語学級補助・授業準備) | | | 知立東小学校 高根保育園全体 |
| 1:00 ~ 2:00 | 高根保育園 | | | |
| 3:00 ~ 4:00 | なかよし保育園 | | | |

未就園児は送迎上の都合により、知立東小学校で行った。(昨年度は高根保育園で実施)

昨年度は活動場所を知立東小学校とし、毎回対象児童の送迎を指導員が行っていたが、保育園側・児童の負担が大きいことから（片道徒歩20分から30分程度かかる）保育園を巡回指導することになった。その経緯から、今年度のプレスクール指導は最初の段階から保育園を巡回指導する形をとった。

適応指導として、知立東小学校では4回体験授業を行った。体験授業は少人数ではなく、対象児童全員（8名から12名）としたため、保育園の先生にも引率をお願いした。児童の人数・様子にもよるが、保育園の先生が2名来て頂けると、児童も落ち着いており、特に送迎は安心できた。尚、雨天の場合は、保育園で全体クラスを行った。（雨の中を登校する経験もさせたいという保育園との意向もあり、小降りの場合は雨天決行を予定していたが、雨が激しかったため中止とした。雨天の日の学校体験授業については、保育園児童のほとんどが車で送迎をされており、傘をもってこない児童が多いため、前日からの呼びかけが必要である。）

(2) 目標について

日本語の視点、生活適応の視点から到達目標を決め、指導を行った。日本語の到達レベルは児童の日本語能力に応じて設定した。

学校生活適応面 ~ 学校生活に早く適応するために、学校での基本的な決まりを知る ~

大きな声であいさつ（授業前後の挨拶・自己紹介を含む）ができる。

学校生活での決まりを知る。（廊下の歩き方・トイレの使い方・持ってきてはいけないものなど）

体験授業・校内見学などを通して日本の小学校を知る。

指導員の指示に耳を傾け、落ち着いて学習ができるようになる。

日本語・学習面 ~ 日本語の環境に慣れ親しむ ~

ひらがなの読みができる。

児童のレベルに応じた語彙を増やす。

10までの数の理解（多い、少ない、どちらが～、助数詞など）

運筆・自分の名前が書けるようになる。

基礎的な会話（日本語学級1程度）ができるようになる。（日本語での会話ができない児童）

(3) 指導内容について

クラス編成

11月に語彙調査（豊橋市教育委員会）を行い、その結果をもとに下の表の通りクラス編成を行った。語彙調査（100問）は、当初1人5分程度を予定していたが、実際1人約10分かかった。また、語彙調査の後保育園の先生方から児童の性格等について伺った。クラス編成は語彙調査の結果だけでなく、児童の性格も考慮して作成した。

<当初予定時間>

9:00～ 保育園1

10:30～ 保育園2



<実施した時間>

9:00～11:30 保育園1

13:00～15:30 保育園2

| | 保育園 1 | | | | 保育園 2 | | |
|----|-------|----|---------------|----|-------|----|---------------|
| | 児童 | 点数 | クラス | | 児童 | 点数 | クラス |
| 1 | Aちゃん | 96 | 少人数クラス 対象外 | 1 | Mちゃん | 96 | 少人数クラス 対象外 |
| 2 | Bくん | 95 | | 2 | Nちゃん | 95 | |
| 3 | Cくん | 88 | | 3 | Oくん | 93 | |
| 4 | Dちゃん | 86 | | 4 | Pちゃん | 89 | |
| 5 | Eちゃん | 83 | | 5 | Qくん | 88 | |
| 6 | Fちゃん | 79 | Aクラス | 6 | Rちゃん | 85 | A個人 1 |
| 7 | Gちゃん | 71 | | 7 | Sくん | 58 | |
| 8 | Hくん | 69 | | 8 | Tくん | 37 | |
| 9 | Iちゃん | 54 | Bクラス | 9 | Uくん | 0 | A個人 1 |
| 10 | Jちゃん | 46 | | 10 | Vちゃん | 45 | 帰国 |
| 11 | Kくん | 45 | | 11 | Wくん | 63 | 1月転入 |
| 12 | Lちゃん | 23 | 個人 2月からの参加 | | | | 2月ブラジル学校へ 2 |

【補足】1月から両保育園とも全体クラスを実施。(1週間から2週間1度)

- 1 Sくんの転居(12月保育園欠席、1ヶ月ほどプレスクールに参加したが、その後転居) Vくんの転入(1月保育園転入、2月ブラジル学校入学)の際は、クラス編成を見直し、クラス1(SとW)クラス2(TとU)に分けて授業を行った。
- 2 Rくん・Tくんは、同じクラスでの授業を行ったが、個人の性格・学習能力を考慮し保育園とも相談した上で各30分の個人授業を週4回することへと変更した。

授業の流れ(少人数・個人クラス60分)

| 時配 | 内容 | 指導の留意点 |
|----|--|--|
| 5 | あいさつ 「起立・気をつけ・礼・お願いします。」 出席(大きな声で「はい」と返事) 自己紹介(名前・年齢・お願いします) 会話 出席 あいうえおの歌 | T P Rで授業前の挨拶を自然と身につけさせる。 みんなの前で大きな声で自己紹介をさせる。 基礎的な会話力が必要な児童へは日本語学級1を意識した指導をする。(日本語での会話ができる児童には、好きな食べ物、友達とする遊びなどへと会話の幅を広げる。) 毎授業で繰り返し歌うことで音の並びを定着させる。最初の段階ではまず指導員と一緒に全部歌い、次に今日はあ行まで、できたらか行までと段階的に練習。 |
| 10 | ひらがな よみ | くもんのひらがなカードを使用し、ひらがなのよみ練習。学習したひらがなで始まることばも教える。 (「あ」だったら「あひる・あり」など) |

| | | |
|----|--|---|
| 10 | 語彙 絵カード | 昨年度作成した絵カード・くもんの絵カードを中心に行う。 カードの見せ方(少しずつ見せる・素早く見せるなど)、口頭練習(児童が先生役になるなど)アクティビティー(かるた・カードさがしなど)を工夫し、児童の集中力を維持させる。 |
| 20 | 運筆活動 | 12月は運筆練習・名前を中心に行う。12月後半から運筆練習に「し」「つ」などのひらがなを取り入れる。1月よりひらがな・名前(苗字を含め)の練習をする。 その際には、姿勢、鉛筆の持ち方、ひらがなの書き順も指導する。 |
| 10 | 数字の学習 (または) 色の学習 | 日本語で会話ができる児童でも「いくつ?」の問いかけがわからない児童が多い。「いくつ?」「どっちが多い?」といった算数用語も一緒に導入する。 保育園でもクレヨンを使っているため、定着が早い。茶色、肌色、紫がいない児童が多い。色を塗る作業をするとき、意識的に色を言わせる。 |
| 5 | 片付け 出席シートにシールを貼る。 おわりのあいさつ 「起立・気をつけ・礼・ありがとうございました。」 | 指導員の指示に従って片付けをさせる。 出席シートにシールを貼らせる。後半児童に日付も書かせる。日付の概念を学び、数字を書く練習にもつながる。 TPRで授業後の挨拶を自然と身につけさせる。 |

未就園児について

11月語彙調査段階では未就園の児童はゼロだった。その後未就園児が2名、ブラジル学校通園児童の内、知立東小学校へ入学希望者が1名上がった。詳細は下の表の通りである。

| | 児童 | 語彙調査 | 状況 | プレスクール参加の有無 |
|---|-----|------|-------------------------------|-------------|
| 1 | Xくん | 98 | 保育園に通園していたが、送迎ができなくなり退園。 | 参加 計3回 |
| 2 | Yくん | 4 | 保育園に通園していたが、一時ブラジルへ帰国。再度来日した。 | 不参加 |
| 3 | Zくん | 実施せず | ブラジル学校の保育園に通園。 | 不参加 |

Xくんは家庭でも日本語での会話ができただけで、学校でのきまり、もちもの確認。身の回りのものの名称、形容詞等の語彙を学び表現の幅を広げることに重点をおいて学習を進めた。3回のプレスクール授業の後、再度行った語彙調査結果は100点だった。

(4) 指導による児童の変化について

【児童の変化】語彙が増えた。

下グラフ・表からもわかるようにどの児童も着実に語彙が増えた。11月当初0点だった状態から71点まで伸びた児童がいるほどである。全体の平均も1回目75点から3回目91点へ1と16点上がっている。楽しんで日本語の勉強をできたことが、児童の集中力へと繋がり、結果たくさんの語彙を習得できたと考えられる。しかし、この語彙調査の結果が必ずしも児童の日本語会話力につながるわけではなく。同じ70点でも会話力には差がある。

【児童の変化】文字への興味・関心が芽生えた。または増進した

ひらがなが全く読めなかった児童のほとんどがひらがなが読めるようになった。五十音表なしに

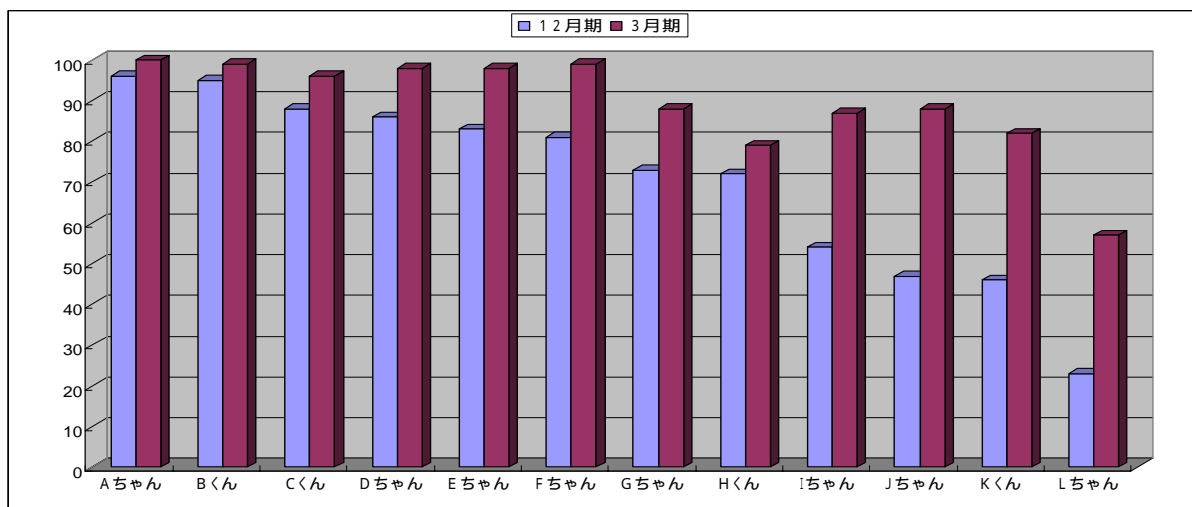
すらすら読める、または読めないひらがなは五十音表をたどって読むことができる児童がほとんどである。以前は漠然と書いていただけの名前もひらがなが読めるようになってからは、一字一字理解してフルネームで書けるようになった。また、運筆練習を十分にした効果が現れ、安定した字を書けるようになった。

【児童の変化】学習態度

データ上には出てこないが、一番大きく効果を見せたのは学習態度である。12月と3月ではその学習態度は歴然と違う。確実に机にむかって学習できる時間が長くなった。また落ち着きのなくなりやすい全体クラスでも少しずつ緊張感をもって勉強できるようになってきた。(但し、全体クラスで集中して取り組ませるためには保育園の先生の補助が必要だった。)

このような変化が児童の自信へとつながり、授業中の顔つきが、遊んでる顔から集中して取り組む顔へと変化した。以下は11月・1月末・3月の3度、語彙調査を行った結果である。

保育園 1

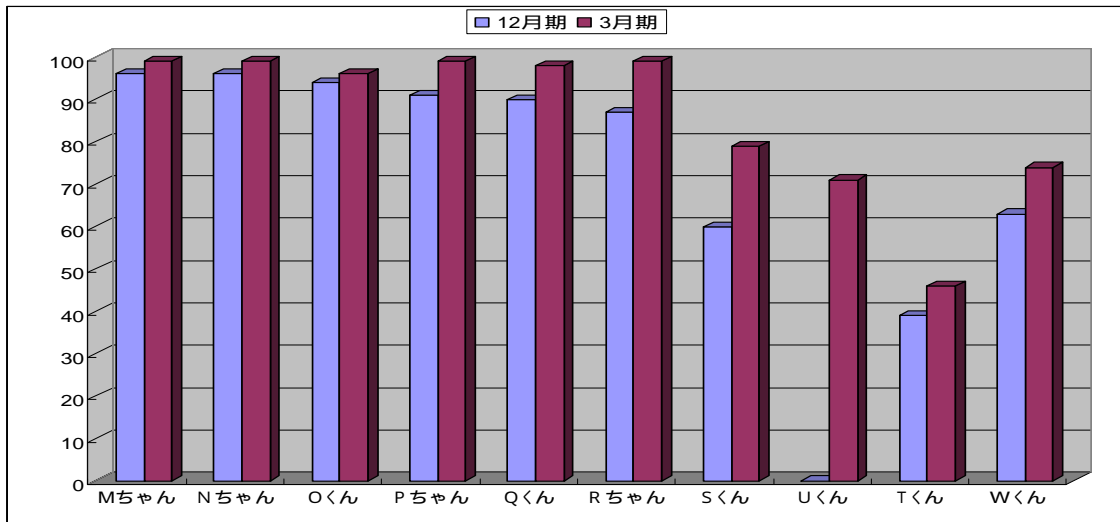


| | 名 前 | | | 学習 時間 | 語彙調査結果 (100問) | | | |
|------|-----|------|---|----------|-----------------|-----|-----|-----|
| | | | | | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 伸び率 |
| | 1 | Aちゃん | 女 | 6 | 96 | 99 | 100 | 4 |
| | 2 | Bくん | 男 | 6 | 95 | 95 | 99 | 4 |
| | 3 | Cくん | 男 | 6 | 88 | 90 | 96 | 8 |
| | 4 | Dちゃん | 女 | 6 | 86 | 94 | 98 | 12 |
| | 5 | Eちゃん | 女 | 6 | 83 | 92 | 98 | 15 |
| Aクラス | 6 | Fちゃん | 女 | 23 | 81 | 92 | 99 | 18 |
| | 7 | Gちゃん | 女 | 13 | 73 | 75 | 88 | 15 |
| | 8 | Hくん | 男 | 16 | 72 | 79 | | (7) |
| Bクラス | 9 | Iちゃん | 女 | 26 | 54 | 79 | 87 | 33 |
| | 10 | Jちゃん | 女 | 23 | 47 | 79 | 88 | 41 |
| | 11 | Kくん | 男 | 24 | 46 | 78 | 82 | 36 |
| 個人 | 12 | Lちゃん | 女 | 12.5 | - | 23 | 57 | 34 |

no.8 のHくんは3回目の語彙調査が出来なかったため、上グラフでは2回目の調査結果と比較した。

no.12 のLちゃんは2月から参加のため、上グラフでは2回目の調査結果と比較した。

保育園 2



| | 名 前 | | | 学習 時間 | 語彙調査結果 (100 問) | | | |
|----|-----|------|---|----------|------------------|------|------|-----|
| | | | | | 1 回目 | 2 回目 | 3 回目 | 伸び率 |
| | 1 | Mちゃん | 女 | 9 | 96 | 97 | 99 | 3 |
| | 2 | Nちゃん | 女 | 8 | 96 | 97 | 99 | 3 |
| | 3 | Oくん | 男 | 9 | 94 | 95 | 96 | 2 |
| | 4 | Pちゃん | 女 | 9 | 91 | 97 | 99 | 8 |
| | 5 | Qくん | 男 | 11 | 90 | 92 | 98 | 8 |
| | 6 | Rちゃん | 女 | 11 | 87 | 95 | 99 | 12 |
| 個人 | 7 | Sくん | 男 | 27.5 | 60 | 64 | 79 | 19 |
| 転居 | 8 | Tくん | 男 | 5.5 | 39 | 46 | | (7) |
| 個人 | 9 | Uくん | 男 | 23.5 | 0 | 32 | 71 | 71 |
| 転校 | 10 | Wくん | 男 | 5.5 | 63 | 74 | | 11 |

no.8 の Tくん、no.10 の Wくんは 3 回目の語彙調査が出来なかったため、上グラフでは 2 回目の調査結果と比較した。

(5) 保護者、学校、地域等との関係について

【保護者】

プレスクール実施にあたり保護者の理解を得られているように感じた。わが子の小学校入学が近づき、学校の勉強についていけるか、適応できるか心配している保護者が多い。そのため、家庭で一緒に冬休みの宿題をしたり、ひらがなを読んだり、熱心な保護者が多く見受けられた。家庭でも学習をしたことで、ひらがながすらすら読めるようになった児童、語彙が定着した児童が多かった。一緒に勉強ができなくても、家庭で両親からほめられることは、子供のモチベーションをあげることにつながる。プレスクールで新しいことを覚えて帰る。お父さんお母さんにほめてもらえる。といういいサイクルができ、はりきってプレスクールにのぞむ児童もいた。保護者とのコミュニケーションについて

保育園へのお迎えの時間の都合上、会って話しができる保護者はごく少数に限られていたため、次のようにしてプレスクールへの理解を求めた。

プレスクールへの理解を求めようと、プレスクールについてのプリント「プレスクールってな

に？」を作成・配布した。

毎月末に一ヶ月で学習した内容を記したプリント、指導員からのコメント（保護者がコメントを書ける欄も作成）、翌月のプレスクールの日程を配布した。

冬休みの宿題には、読み方をアルファベットで書き、ポルトガル語の訳も加え、日本語のわからない保護者でも子供と学習ができるよう工夫した。

【学校・保育園】

保育園・学校、また市教委にご理解とご協力頂き、活動がスムーズに進んだ。保育園でプレスクールを実施したことにより、密に保育園の先生方とのコミュニケーションがとれ、児童の様子についての十分な情報交換ができた。小学校では、日本語学級の先生方をはじめ、たくさんの助言を頂き、大変参考になった。また、プレスクールでの児童の様子、学習成果まとめ、中間報告書、最終報告書を作成し小学校と保育園に配布した。

5. 使用教材について

- ・ 語彙調査カード100（豊橋教育委員会 築通先生作）
- ・ くもん式ひらがなカード
- ・ くもん やさい・くだものカード
- ・ くもん 花と木カード
- ・ くもん 動物カード
- ・ くもん 反対ことばカード
- ・ 身の回りのものカード・数字カード・他絵カード（昨年度作成分）
- ・ あいうえおさいころ
- ・ 形容詞絵教材
- ・ ひらがな五十音表

教材は昨年度指導員が使用したものを中心に使用した。

6. 参考教材等について

- ・ 「日本語学級1」 凡人社
- ・ 「できるかな 4歳」多湖輝のNEW 頭脳開発
- ・ 「かず 3歳」 学研
- ・ 「はじめてかくひらがな上 せんのれんしゅう」 がっけん（運筆練習用）
- ・ 新版はぎとり式ひらがな練習 教育同人社
- ・ アソシエーションカード練習帳（豊橋・築樋先生）
- ・ にほんごドレミ（財）海外日系人協会

7. まとめ

プレスクール参加児童は、着実に語彙を習得し、また語彙調査という数値に表れない面でも（学習態度など）大きく成長を見せた。これは決してプレスクールの授業内だけで習得したのではなく、保護者、学校、保育園の理解と協力があったからこそだと実感している。しかし、語彙調査の結果がよく、日本語での会話ができても、生活言語と学習言語は異なるため、日本の家庭で育った児童と同じように授業についていけるとは限らないのが現状である。

そういった状況の中で入学する外国人児童にとって、日本の学校について事前に知れたこと、ひらがなが読めるようになり、名前が書けることは大きな自信であると同時に、学校側の負担も軽減される。これは昨年度の成果からもいえることであり、プレスクール事業の必要性・重要性を実感した。

最後にこのプレスクール事業活動にあたり、愛知教育大学岡田先生、知立市学校教育課、児童課、知立東小学校、保育園の先生方のご理解・ご協力により、活動が無事修了できたことを感謝している。

2 . 小牧市実施

公立学校早期適応指導員事業報告

小牧市担当 加藤紘子

1. 講座実施期間

2007年12月1日～2008年3月24日(4ヶ月間)

2. 活動拠点

小牧市(小牧市立大城小学校)

3. 概要

(1) 外国人児童の状況

小牧市東部には、丘陵地である桃花台ニュータウンがあり、大きく分けて古雅、篠岡、城山、桃ヶ丘、光ヶ丘の5つの地域に分類されている。大城小学校はそのうち城山地区に位置している。ニュータウン内には9つの県営住宅があり、城山地区には城山住宅、城山第二住宅、城山第三住宅がある。大城小学校在籍の外国人児童の多くは、このいずれかの県営住宅に居住している。外国人の移住者も増えてはいるが、集住というほどではなく、タウン人口の6～7%に留まっていて、小学校に関しては国際学級を設置して対応している。ブラジル籍が多くを占めるが、それだけではなく、ボリビア、ペルーを始め、中国、フィリピンなど多国籍にわたっているのがこの地区の特徴であるともいえる。

(2) プレスクール実施による効果

- ・当初は、自分の主張ばかり通そうとする児童がほとんどであり、あちこちで「先生」「先生」と声が挙がり、皆待つことができずに一斉に話していたが、終わるころには、順番を待って発言することができるようになった。
- ・平仮名一つ書くのでも、教師に頼っていた児童も多かったが、徐々に自分の力でやり遂げようとするようになった
- ・授業の流れに沿って、自分から準備と片付けができるようになった。
- ・トイレの使い方(使ったサンダルは揃える・手を洗う・電気を消すなど)が身についた。
- ・喧嘩のあとやちょっとした言い争いの中でお互いに謝ることを覚えた。
- ・気に入らないことがあると、すねて教室の隅に座り込んでしまう児童がいたので、叱るべきことは叱り、あとは自分から戻ってくるのを待つという形で指導を続けたところ、自分で解決の糸口を見つけ、立ち直ることができるようになった。
- ・今まで、保育園と家の往復でしかなかった児童が、年齢の異なる人々のいる小学校という場に顔を出すことによって、世界が広がり、今までほとんど話さなかった児童が、たとえ伝わらなくても自分から話そうとするなど、意欲がでてきた。(保育園より)

(3) プレスクール実施にあたり気をつけた点

- ・対象生徒の選定をなるべく早くすること

理由：公立学校への入学予定の児童が対象の事業であり、受け入れ校との連携の中で保護者の意思を決

定させることが、まず重要となる。それにより子どもの進路も決定するし、決まれば子どもと直接会うことによってプレイスールで達成させるべき目標なども見えてくる。

4. 活動内容

(1) 活動場所について

小学校内の活動室を一室と国際学級の後方三分の一の両室を併用。

12月...活動室を主に使用

理由：保育園との調整上、小学校の生徒下校後にもプレイスールの時間割が設定されていたため、同じ環境での学習を心がけ、国際学級ではなく活動室を主に使用した。

1月から...国際学級（午前クラス）/国際学級と活動室（午後クラス）

理由：未就園の生徒を中心に午前クラスが設けられたため、集団生活への適応という意味も含めて、国際学級を使わせてもらった。午後のクラスは、もともと落ち着きのある生徒が多かったが、国際学級の先生方との時間を徐々に増やしていった。

国際学級の生徒数も増加傾向にあり、国際学級担当教員二名とボランティア一名が常に教室内にいる状態であったため、教室も手狭になってしまい、先生方にはご迷惑をおかけしたが、生徒たちは国際学級の生徒たちに刺激され、学校は学ぶところだという意識をもったようだった。先生方からは、来年入学してくる子どもたちの様子がわかり、助かるとのお話を頂いた。

来年度からの国際学級での学習に備えて、その場所で学べるというのはとても恵まれた環境ではあったが、国際学級での学習に比べて、動く活動も多く、国際学級の生徒には騒音であったようにも思う。教師自身も、声を張り上げないと子どもたちを統制できず、それを考えると、午後クラスのように、動く活動は活動室を使用し、落ち着いたところで国際学級へという形が適していたと、思われる。

(2) 目標について

未就園の生徒

未就園の生徒については、家庭でもほとんど日本語を使わない環境にあったため、まずは日本語になれることを第一とし、ひらがなという文字に興味をもたせることに重点をおいた。授業が進むにつれ、学校内や教室内にある掲示物を自分から読む生徒も増え、平仮名を身近に感じるようになっていた。

通園している生徒

日本語での会話は、何とかできる生徒が多かったため、生活習慣を身につけると共に、語彙を補充し、表現の幅を広げることに重点をおいた。

一つの言い方では伝わらないことも、他の言い方で言おうとする生徒が増えた。勉強という形で日本語にふれ、今まで曖昧だった語彙にも自信がもてる生徒が増えた。

| | 目標 |
|------|--|
| 未就園児 | <ul style="list-style-type: none">・日本語の環境に慣れ親しむ。・ひらがなの音に慣れ親しみ、より多くの語彙や表現に触れる。・挨拶・返事など学校での生活習慣を身につける。 |

| | |
|--------|--|
| | ・集団生活に慣れる。 |
| 保育園通園児 | ・挨拶・返事など学校での生活習慣を身につける。 ・より多くの語彙に触れ、表現の幅を広げる。 ・わからないことがあったら、自分でできくなど、学習態度を身につける。 |

(3) 指導内容について

12月

月木クラス (通園児2名) 月木クラス (未就園児2名)

火金クラス (通園児2名) 火金クラス (通園児2名+未就園児1名) 計9名

13:30~14:30 15:00~16:00

| | 指導内容 | 使用教材 |
|----------------|--|---|
| 月木クラス 火金クラス | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、座学の姿勢、鉛筆の持ち方 ・平仮名50音になれる ・平仮名読み(あ・か・さ行) ・運筆(線、簡単な平仮名) ・5までの数/10までの数 ・語彙(身の回りのもの・教室内のもの・文房具・身体の部位) | あいうえお表 絵カード(身の回りのもの・教室内のもの・文房具) 身体の部位パネル あいさつカード 平仮名カード(あ・か・さ行) はじめてかくひらがな上 運筆シート |

1月~

10:30~11:30

13:30~14:30

15:00~16:00

| | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------------------------|---|---|--|
| *月火木金 クラス 未就園児 4名 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、座学の姿勢、鉛筆の持ち方 ・平仮名50音 ・平仮名読み(あかさた行) ・運筆(迷路、簡単な平仮名、数字123) ・10までの数 ・どちらが多い ・語彙(身の回りのもの・教室内のもの・位置・掃除用具) | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事 ・平仮名読み(あかさたなは行) ・運筆(あ行、数字456) ・語彙の復習 ・新語彙(果物・野菜・花・動物) ・基本動詞 ・箸の使い方 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事 ・平仮名読み(あかさたなはまやらわ行) ・運筆(かさ行、数字78910) ・語彙の復習(名詞・動詞) ・新語彙(親族名称・食べ物・色・乗り物・虫) ・形容詞 |
| *月木 通園児 3名 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、座学の姿勢、鉛筆の持ち方 ・平仮名50音 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事 ・平仮名読み(あかさたなはまやらわ行) | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事 ・平仮名読み(あかさたなはまやらわ行) |

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>*火金 通園児 2名 + 未就園 1名 3/3 ~ 1名追加 4名</p> | <ul style="list-style-type: none"> 平仮名読み (あかさたな行) 運筆 (迷路、簡単な平仮名、数字 1 2 3) 10までの数 どちらが多い 語彙 (身の回りのもの・教室内のもの・位置・掃除用具) | <ul style="list-style-type: none"> 運筆 (あか行、数字 4 5 6) 語彙の復習 新語彙 (果物・野菜・花・動物) 基本動詞 助数詞 (~枚、~本) 箸の使い方 | <p>がざだばば行)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運筆 (さたな行、数 7 8 9 10) 語彙の復習 (名詞・動詞) 新語彙 (親族名称・食べ物・色・乗り物・虫) 形容詞 |
| <p>*月木 通園児 1名 *火金 通園児 2名</p> | <p>1/2 8よりスタート</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、座学の姿勢、 鉛筆の持ち方 平仮名 50音になれる 平仮名読み (あ・か・さ行) 運筆 (線、簡単な平仮名) 語彙 (身の回りの物・教室内の物) | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、返事 平仮名読み (あかさた行) 運筆 (あ行、数字 1 2 3) 語彙の復習 新語彙 (色) 基本動詞 10までの数 どちらが多い 箸の使い方 | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、返事 平仮名読み (あかさたなはまやらわ行がざだばば行) 運筆 (あか行、数字 4 5 6) 語彙の復習 新語彙 (果物・野菜・花・動物・乗り物・親族名称) 基本動詞 形容詞 助数詞 (~枚) |

クラス概要

12月

| | 時間 | 参加人数 | 入学予定 |
|-------|---------------|--------------------|-------|
| 月木クラス | 13:30 ~ 14:30 | 大城保育園 2名 | 大城小学校 |
| 月木クラス | 15:00 ~ 16:00 | 未就園 2名 | 大城小学校 |
| 火金クラス | 13:30 ~ 14:30 | 大城保育園 2名 | 大城小学校 |
| 火金クラス | 15:00 ~ 16:00 | 大城保育園 2名 未就園 1名 | 大城小学校 |

1月~

| | 時間 | 参加人数 | |
|-------------|---------------|-------------------------------|--|
| 月火木金 クラス | 10:30 ~ 11:30 | 未就園 4名 (うち 1名は年末までは 通園) | 1/31 ~ 同クラスの保護 者の方の送迎により 1名 増加 2/18 ~ 同クラスの保護 者の方の送迎により 1名 増加 |

| | | | |
|-------|-------------|--------------------------------------|--------------------------|
| 月木クラス | 13:30～14:30 | 大城保育園 3名 | |
| 火金クラス | 13:30～14:30 | 大城保育園 2名 未就園 2名 (うち1名は年末までは通園) | 3/1～渡日間もない生徒1名が来校(大城保育園) |
| 月木クラス | 15:00～16:00 | 大城保育園 1名 | 他小学校入学予定 |
| 火金クラス | 15:00～16:00 | 大城保育園 2名 | 他小学校入学予定 |

指導方法

ひらがな・語彙

- * あいうえおの歌で50音に慣れる。
- * カード(平仮名・絵)を床にまき、教師が指定したものを取りに行く。
- * 裏返しにしてあるカードをめくり、答える(読む)。
- * 机の中に入っているカードを一枚ずつ取り出し、答える。
- * 黒板に立てかけてある無作為な順番の平仮名を読む。
- * 自分の知っている言葉を仮名カードで作る。
- * 学校内にあるポスターで平仮名をさがす。
- * 平仮名カードや絵カードを用いたすごろくゲーム
- * 絵カードでしりとり作成ゲーム
- * 壁にカードをたてかけ、目標を定め、その平仮名または語彙を言ってからボーリングの要領でボールを当てる。
- * 反対語の学習で、箱を利用し、**高い**のカードを箱を通すと**低い**で出てくるなど、子どもの興味をひく提示の仕方をした。(5、使用教材欄参照)

数

- * 数を数える事に慣れていなかったなので、保育園との往復間にある階段や、活動室から国際学級への移動時の階段で数を数えた。
- * すごろくを通して、さいころで数を勉強。
- * 床に落とさないように紙風船を順番に打ち、数を数える。(始めは皆で1から順番に 徐々に自分の番の数だけを言う)

運筆

- * 文字練習用シートを使用し、ホワイトボードマーカーで繰り返し消して練習できるものから始めた。(写真)
- 鉛筆で一定の線を引くことがまず難しかったので、書きやすいマジックから入ったのは良かった。

クラス編成

- * 年末年始をはさんで、児童の状況にも変化があり、年末まで通園していた生徒2名が保護者の仕事の関係で未就園となった。保護者の方の送迎のご協力により、1名は午前クラスでもう1名はそれまで通りの時間で来校が可能となった。
- * 1月より未就園の生徒対象の午前クラスが開講となった。スタートは2名であったが、保護者の方お二方のご協力により、他2名も送迎していただき、計4名のクラスとなった。授業の効率などを考えると、4名は良い環境とはいえない状態であり、悩んだが、未就園であるということと、なるべく日本語に触れる時間を増やしたいという保護者の方の要望

もあり、週4日4名でのクラスとした。国際学級の先生にもお手伝いいただいた。

*クラス編成では、レベルだけで分けるのではなく、通園している生徒に関しては、保育園の先生方から児童の性格など意見を伺った。(この年齢の子どもたちは、相性一つで、授業の進度に支障がでるため)

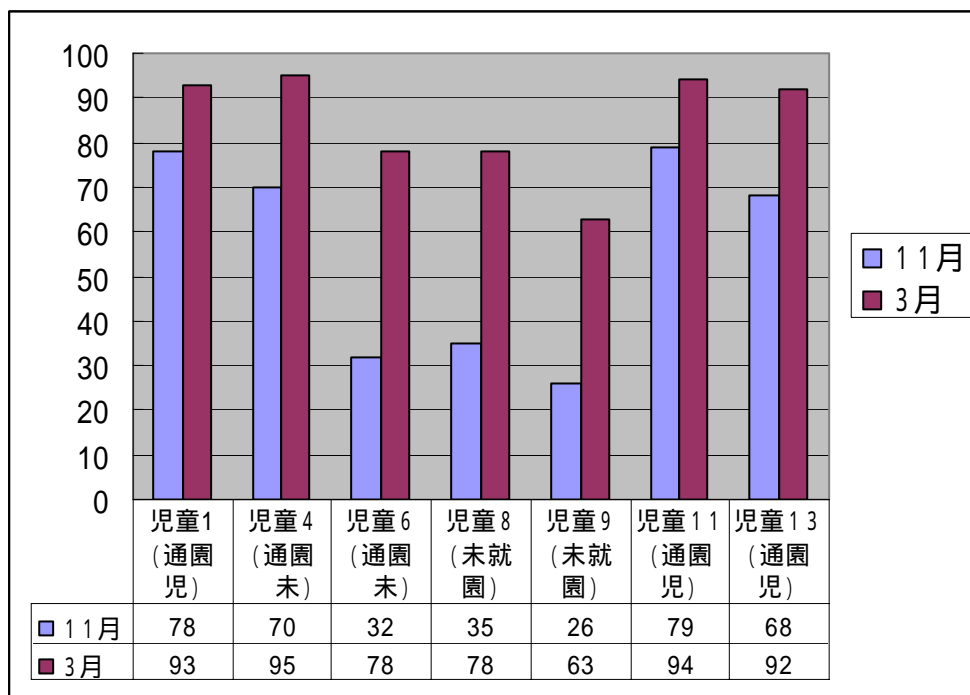
(4) 指導による児童の変化について

参加児童(全14名)

| | 参加クラス | 100問語彙テスト 11月 3月 | |
|------------------------|--------------------------------------|---------------------|---|
| 大城保 1 <20h> | 12月 月木クラス 6h 1月~ 月木クラス 14h | 78 93 | 仮名に興味を持つようになり、自分から進んで掲示物などを読むようになった。 自分の嫌なことには取り組まないなど頑固な面が始めはあったが、終わる頃には、他の生徒を授業に引き戻すなど、リーダー的な役割もするようになった。 |
| 大城保 2 <13h> | 12月 月木クラス 4h 1月~ 月木クラス 9h | 81 93 | 保育園を休みがちなので欠席が多かったが、語彙の吸収が早く、運筆力もあがった。 |
| 大城保 3 <21h> | 12月 火金クラス 5h 1月~ 火金クラス 16h | 92 98 | 運筆が捗らなかったが、入学説明会をきっかけに、一生懸命とりくむようになった。語彙力はあったが、平仮名が読めなかった。50音の並びを理解してからは早かった。初めから落ち着いて座学はできた。 |
| 大城保 未 4 <19h> | 12月 火金クラス 6h 1月~ 火金クラス 13h | 70 95 | 家庭ではポルトガル語であるため、保育園を辞めてからの日本語力の低下が気になったが、自分からよく話す性格であり、プレスクール時になるべく発話させるようにした。さほど影響はなかった。語彙の吸収も早く、平仮名をおって絵本を読むまでになった。 |
| 大城保 5 <26h> | 12月 火金クラス 7h 1月~ 月木クラス 19h | 93 97 | 語彙力はあるが、座学がむずかしく、自分の思うようにならないとすねるなど、最初はこずだったが、終わる頃には、自分で準備片づけをしたり、他人に順番を譲るなどし、落ち着いてきた。自分を見てほしいという甘えがあったようだ。 |
| 大城保 未 6 <43h> | 12月 火金クラス 9h 1月~ 月火木金クラ 34h | 32 78 | 大人しく自分から話す性格ではないが、慣れてくるにしたがって、発話が増えた。家庭ではポルトガル語であるため、保育園をやめてからの日本語力が気になったが、語彙力は急激に伸びた。休まず、常に真面目に取り組んでいたため、運筆力も確実に伸びた。 |
| 未就園 7 <4h> | 12月 火金クラス 1h 1月~ 火金クラス 3h | 69 未測定 | 年末に母親が出産したため、その前後数日しか来校できなかった。一人でも来れると本人は言ったが、送迎が原則であり、母親に代わって送迎できる人を見つけることはできなかった。 |

| | | | |
|--------------------|---|--------|---|
| 未就園 8 <23h> | 12月 月木クラス 3h 1月～ 月火木金クラス 20h | 35 78 | 初めから平仮名は読めたが語彙力は低かった。吸収が早く、どんどん語彙力は伸びた。日本語での発話がほとんどなかったが、許可を求めるなど簡単なものは日本語でできるようになった。 |
| 未就園 9 <16h> | 12月 送迎難で欠席 1/31～他生徒の保護者により来校可能 月火木金クラス 16h | 26 63 | 語彙力は低かったが、平仮名が読めるので、自分から積極的に仮名を読んで語彙力を増やしていった。吸収も早いので、語彙力の伸びも大きかった。日本語を使う時間がプレスクール時だけだったので、日本語だけのスムーズな会話はまだ難しい。 |
| 未就園 10 <12h> | 2/18～ 他生徒の保護者の送迎により来校可能 月火木金クラス 12h | 17 未測定 | 初めは立ち歩きが絶えず、なかなか座っていられなかったが、徐々に、座っていられる時間が長くなった。平仮名からのスタートだったので、周囲との差を本人が気にしているようだったが、素直に発音を復唱するなどし、日本語の音を楽しみながら、吸収していった。徐々に協調性もでてきた。 |
| 大城保 11 <12h> | 1/28～ 月木クラス 12h | 79 94 | 意欲が高く、その姿勢が語彙の吸収にもつながった。短気で飽きやすい、自分勝手な面があったが、教師の言うことは聞き、勝手な行動にでることが徐々になくなっていった。 |
| 大城保 12 <15h> | 1/29～ 火金クラス 15h | 83 96 | 初めから語彙力もある方だったが、さらに吸収した。運筆も丁寧に書くことを心がけるようになった。 |
| 大城保 13 <13h> | 1/29～ 火金クラス 13h | 68 92 | 緊張からか、初めはほとんど話さなかったが、たとえ伝わらなくても自分から話すようになった。ひらがなの読みを急速に覚えた。絵本の平仮名もたどるようになった。 |
| 大城保 14 <2h> | 3/4～ 通園開始と共に来校 火金クラス 2h | 未測定 | 二回のみで終わってしまったが、日本語の音にも興味を示し、平仮名の発音を復唱していた。 |

100 問語彙テスト結果



プレスクール開始前と修了時に100問語彙テスト（豊橋市教育委員会築樋先生作成）を行った。通園している生徒は、語彙力も高く、修了時に成果が現れるのか疑問だったが、実際に実施してみて、かなりの伸びが見られ、満点に近い生徒もいた。

(5) 保護者、学校、地域等との関係について

・ 保護者の方々の理解を得ることの大切さ

直接保護者の方々と会い、プレスクールについて理解を得ることによって、公立学校入学への意思もより強固なものとなり、また、お互いに信頼度もあがった。（保育園に通園している生徒に関しては、送迎の時間をねらって、実際に保護者の方に合わせてもらった。未就園の生徒に関しては、電話でコンタクトをとり、保護者の送迎で来校してもらった。）

未就園の生徒の送迎が大きな問題だったが、保護者の方から申し出があり、他の生徒の送迎もお二方がしてくださった。大変ありがたい。このような信頼関係が築けたことも上記のことが効していると言える。

・ 保育園や小学校との時間割の調整

通園している生徒は、保育園での活動中に児童をお借りしてプレスクールをさせてもらうため、なるべく保育園での活動の少ない時間を選び実施するなど、調整が必要。また、小学校の時間割に必ずしも沿う必要はないが、迷惑にならない時間を考え、また、国際学級との接触なども考慮し、調整が必要。（今年度に関しては、国際学級担当教員も増員し生徒数も増えていたため、プレスクールを国際学級内で全て実施するのは難しかった。）

・ 小学校との連携

業務を遂行するに当たって、生徒用の机やイス、教師用にも机やパソコン、ロッカー、靴箱などを用意して頂き、また、コピー機なども自由に使わせてもらった。いろいろな面でご配慮頂き、大変よい環境を提供していただき、非常に有難かった。また、学校内の行事にも自由に参加させてもらった（6年生を送る会や入学説明会時の入学予定の子どもたちと1年生との交流会など）

個人としては、国際学級との連携をもっと強めたかったが、国際学級もプレスクールも昨年に比べて人数が増えていたため、なかなか思うようにはならなかった。その分、プレスクールのない時間帯は、状況把握も含めて国際学級のお手伝いをさせてもらった。わずかな時間であっても、国際学級にプレスクールの子どもたちが顔をだ

すことによって、先生方も子どもたちの様子がわかってよかったと言って下さり、少しはお役に立てたかと思う。また、最終的に生徒数及びクラス数がかなり増えてしまい、私自身余裕がなくなってしまい、学校の先生方との意見交換の機会が保てなかった。必要とする生徒がいればと思い引き受けたが、生徒にとっても、教師が余裕を持って接することができる環境が必要であったように思う。

5. 使用教材について

* 運筆シート

園児にとっては、鉛筆を持って一定の線を書くことがまず第一歩。導入でマジックを使用することによって、書きやすくスムーズに運筆活動ができる。線と簡単な平仮名「し」「つ」「く」「へ」などを用意した。



* 絵カード

会場が学校であったため、実物を見せることも多かったが、絵カードを使用することによってより語彙の幅も広がり、生徒も新しいものをどんどん知りたがるなど、興味を持って絵カードに接していた。また、すごろくなどゲームで使用するにも適していた。

* めくりゲーム

個人での復習用の教材になるが、三段階に面が変わり、絵 ひらがな 絵と変化する。語彙の復習と確認に使える。語学相談員の方にこのアイデアを頂いた。色にも応用可能。



* ふしぎな箱

反対語の学習で使用。箱を利用すると何が出てくるか子どもたちも気になるようで、興味津々だった。くもんの反対ことばカードを使用し、「おおきい」のカードを箱脇のすきまから入れると反対側の脇の隙間から「ちいさい」のカードが出てくるように箱の中で教師がカードを裏返す。



運筆

- * 『うんぴつ6 やさしいめいろ1集』 くもん出版
- * 『はじめてかくひらがな 上』 学研
- * 『ひらがなのれんしゅう』 教育同人社
- * 『やさしいひらがな 2集 345歳』 くもん出版

語彙

- * 『4さいのこくごあそび 園児のほーむわーく』 数学研究社
- * 『かずとことばのトレーニング 4さい ママできるよ』 数学研究社
- * 『知識のトレーニング 4さい ママできるよ』 数学研究社
- * 『幼児のおけいこシリーズ ひらがなだいすき3さい』 大創出版
- * 『幼児のおけいこシリーズ ことばのれんしゅう5さい』 大創出版
- * 『幼児のおけいこシリーズ ちえあそび4さい』 大創出版
- * 「ことばのテーブル」

数

- * 『やさしいかずかぞえ 345歳』 くもん出版

カード

- * 『反対ことばカード』 くもん出版
- * 『くだもの やさいカード』 くもん出版
- * 『学習カード2 ひらがな1』 株セリア
- * 『学習カード2 ひらがな2』 株セリア
- * 『学習カード2 あいさつ』 株セリア
- * 『知育カード なにしてる』 株セリア
- * 「こどものにほんご1 絵カード」

6. 参考教材等について

- * 豊橋市教育委員会「日本語指導カリキュラム案」「プレクラス指導案」
- * 豊田市ことばの教室「日本語指導カリキュラム案」
- * 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』 凡人社
- * 『ひろこさんのたのしいにほんご1』 凡人社
- * 『こどものにほんご1』 スリ-E-ネットワーク
- * 『算数文章題のキーワードを教える』 愛知教育大学
- * 『マリアとケンのいっしょににほんご』 スリ-E-ネットワーク

7.まとめ

- * 保育園に通園している生徒は、園内で日本語での生活が求められるため、ある程度の会話
はできる生徒が多かった。しかし、プレスクールに参加することにより、今まで曖昧だった語彙
に自信がもてたりなど、発話の数が増えた生徒もいた。また、語彙にも伸びがみられ、学習言語など学
ぶべきものがまだ多くあることには、変わりない。4ヶ月という短い期間でのプレスクールでは限界もあり、
今後のサポートもまた重要であると感じる。
- * 会場が小学校だったので、プレスクール時間内でトイレの使い方を学んだり、廊下は走らないな
どあいさつも含め、規則を学べたのは良かった。
- * プレスクールを開講するに当たり、実際に保護者の方々と話をする機会があったが、概して教育
熱心であり、定住志向が高まっていることを実感した。
- * 3.概要でも言及したが、この地区は外国人集住地区とまではなっておらず、小学校のク
ラス内にも外国人は数名在籍する程度である。保育園内でも、ある程度の適応が求められ、
適応が身につけている生徒も多い。一方で、中にはプレスクールに参加することにより、協調性
などが身についた生徒もいた。この状況の中で最もプレスクールが必要と思われるのは、やはり
不就園の生徒である。今年度に関しても、2月中旬から通い始めた児童10は、立ち歩き
が絶えなかった。できれば個人指導を実施したかったが、送迎の問題で難しかった。
- * 集住地区となると、地域全体で解決していかざるを得ない課題となり、取り組みが進む傾
向にあるが、この地区では、まだそこまで深刻化していないと地域ではみている。しかし、
当たり前のことだが、集住していない地域であっても集住地区と同じような環境（学習面、
生活面など）におかれている子どもたちはいる。教育熱心であり定住志向の強い方々が多
いこのような地域にこそ、力を入れて取り組むことによって、今後の子どもたちをより大
きく成長させる、きっかけとなりうるのではないだろうか。

3. 參考資料

平成19年度公立学校早期適応プログラム（プレスクール）事業実施要綱

（事業の目的）

第1条 日本語能力の不足や日本の公立学校制度に対する情報の不足等から、公立学校へ入学後または編入後も授業等についていくことができず、日本語指導が必要なまま学校生活に取り残される等の外国人児童生徒が増加している。

こうした現状を踏まえ、入学直前及び編入直後の外国人児童生徒に対して初期の日本語教育や公立学校への適応指導を行う公立学校早期適応指導員（以下「適応指導員」という。）を設置し、公立学校早期適応プログラム（プレスクール事業）を実施することで、公立小中学校へ早期に適応させ、愛知県における多文化共生社会づくりを推進する。

（適応指導の内容）

第2条 適応指導の内容は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 初期の日本語教育

初期の日本語教育、教材の作成、外国人児童担当教員との連携等

(2) 公立学校での学校生活適応指導

学校活動、学校行事への見学・参加、学校と保護者との間の通訳等

(3) その他

早期に適応させるために必要な支援

（実施場所）

第3条 事業の実施場所については、ブラジル人が多数在住する市町村の中から、2箇所を選定する。

（適応指導員）

第4条 適応指導員については、別に定める「平成19年度公立学校早期適応指導員設置要領」により設置する。

（事業実施期間）

第5条 事業の実施は次のとおりとする。

(1) 実施対象地域の検討：平成19年7月～8月

(2) 適応指導員の選考：平成19年7月～10月

(3) 適応指導員の研修、指導準備：平成19年11月

(4) 適応指導の実施：平成19年12月～平成20年3月

(5) 事業実施評価報告会の開催：平成20年3月

附 則

この要領は、平成19年7月19日から施行する。

平成19年度公立学校早期適応指導員設置要領

(趣旨)

第1条 日本語能力の不足や日本の公立学校制度に対する情報の不足等から、公立学校への入学後または編入後も授業等についていくことができず、日本語の指導が必要なまま学校生活に取り残される等の外国人児童生徒が増加している。

こうした現状に対応し、愛知県における多文化共生社会づくりを推進するため、公立学校早期適応指導員(以下「適応指導員」という。)の設置について必要な事項を定める。

(業務内容)

第2条 日本語の指導が必要な外国語を母語とする外国人児童生徒が多数在住する地域において、就学直前の児童生徒または公立学校への編入直後の児童生徒(以下「就学前児童生徒等」という。)に対し、初期の日本語教育や公立学校への早期適応のため、次の各号に定める業務及びその準備・整理等に必要な業務を行う。

また、指導活動を行うにあたっては、実施活動を行う市町村等と十分な打合せを行い、地域の要望に配慮して行うものとする。

なお、業務完了後は、愛知県に対しすみやかに実績報告書を提出する。

(1)初期の日本語教育

初期の日本語教育、教材の作成、外国人児童担当教員との連携等

(2)公立学校への生活適応指導

学校活動、学校行事への見学・参加、学校と保護者との間の通訳等

(3)その他

事業実施地市町村、愛知県及び適応指導員が必要とみなす業務等

(適応指導員)

第3条 適応指導員は、次の各号に掲げる能力を有する者の中から、愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室において選考し、委嘱する。

(1)日本語及びポルトガル語の高い運用能力を有する者

(2)外国人児童への日本語指導の専門教育を受け、かつ指導経験を有する者

(3)小学校の教員資格を取得している、もしくはそれに準ずる資質を有する者

(4)事業実施地の市町村及び愛知県が必要と認める能力を有する者

(報償費等)

第4条 適応指導員の報償費及び旅費については別に定める。

(適応指導活動を行う時間等)

第5条 適応指導員が第2条に定める業務を行う日時、期間等は、次の各号に掲げるものとする。

(1)期間 平成19年11月から平成20年3月まで(冬・春休み期間を除く)

(2)勤務日 1週間につき4日(土日祝を除く)を超えない範囲内において実施地市町村と愛知県が協議のうえ定める。

(3)勤務時間 適応指導活動を行う時間は1日につき原則として7時間とする。

2 前項で定めた勤務日を変更する必要があるときは、適応指導員、実施地市町村及び愛知県の3者で

協議する。

（任期）

第7条 適応指導員の任期は委嘱の日の属する年度末までとする。

附 則

この要綱は、平成19年7月19日から施行する。

